



電子情報工学科

田村 瞳 助教

電子情報通信学会ネットワークシステム研究会 『ネットワークシステム研究賞』受賞

一般社団法人 電子情報通信学会主催の電子情報通信学会ネットワークシステム研究会において、本学電子情報工学科 田村瞳助教の論文が、さる3月1日に『ネットワークシステム研究賞』を受賞しました。

この賞は年間の研究に対して表彰されるもので、191件の発表中わずか4件のみ表彰されたものです。

この研究会で受賞した研究テーマは「部分統合発生下のダイナミックチャンネルボンディングの性能評価～待ち行列理論によるアプローチ～」です。

電子情報工学科 田村 瞳 助教



【部分統合発生下のダイナミックチャンネルボンディングの性能評価】

無線 LAN の高速化技術のひとつであるチャンネルボンディングは、連続した複数のチャンネルを利用し、伝送レートの向上を図る技術である。しかし、無線 LAN の利用機器数の急増により、複数のチャンネルを利用するとチャンネル競合が発生する可能性が高くなる。チャンネルボンディングでは、チャンネル競合の回避動作として、ダイナミックチャンネルボンディングとスタティックチャンネルボンディングの2種類が提案されており、チャンネル利用効率の面から今後前者が主流になっていくと予想される。しかし実機、シミュレータともに前者を採用したものはない。本研究では、一部のチャンネルを利用する他の無線 LAN との競合がダイナミックチャンネルボンディングを用いた通信の性能に与える影響を、待ち行列理論を用いて解析的に評価した。

掲示期間 H-30-026
5月11日～5月30日

この件のお問い合わせは広報課へ